



◆2020年(令和2年)9月17日発行

◆Vol.38

故きを温ねて、新しきを知る
～葵学園のあしあと③⑧～

保育園事業に着手

2-1

学校法人帯広葵学園

理事長 上野敏郎

平成27年4月から帯広葵学園は、本務である幼稚園経営とは別に新しく保育園経営にも参画することになります。幼保連携の重要さは随分古くから言われてきたのですが、実際に幼児教育や保育の現場で具体化することはありませんでした。ましてや学校法人にはそのチャンスは少なかつたのです。当時の帯広市には、学校法人が保育事業に参画できる環境はありませんでした。しかしながら、世の中の移り変わりが現場を変えていきます。共働き世帯の増加や女性が働くことへの社会的価値観の変化が起因です。この変化が幼稚園や保育園では預かり保育、延長保育を本格的に取り入れることとなります。小学校では学童保育制度の充実にも努めなければならなくなるのです。

この変化を受けて帯広葵学園は、預かり保育センターとして使用していた帯広市西20条南5丁目にある預かり保育センター「あおいキッズハウス」を、定員19人の小規模保育所「012 青い鳥保育園」に衣替えしたのでした。平成27年4月1日でした。帯広市で初めて、学校法人が純粋保育事業に取り組み事業が始まったのです。

小規模保育所は、あくまで3歳未満の子どもが対象です。そのため、この保育所を設置するためには3歳になった子どもを受け入れる体制を整えることが条件にもなります。幸いにして帯広葵学園は、3歳以上の子どもたちを受け入れる幼稚園を2カ所持っています。多くの方々で作ってきた帯広葵学園の歴史が「012 青い鳥保育園」の開設につながったのです。0歳から5歳までの子ども達の受入れを可能にしてくれたのです。

今さらですが、帯広葵学園の現在(いま)を見ると、この経営方針の転換がいかに大きな決断であったかに気づかされるのです。

十勝毎日新聞

小規模保育 未満児の受け皿に



「待機」対策、国新制度受け

共働き世帯の増加などで0～2歳児の保育ニーズが高まっている。管内の自治体では、認定保育所などに入れない「待機児童」を防止と、国の新制度を受けて小規模保育所や事業所内保育の事業を取り組んでいる。独自の施策を子育て支援に力を入れる自治体もある。

帯広市の調査だと、少子化で就学前の子供は減っているが、保育所の入所児童数は増加傾向。中でも、0～2歳児の低年齢層は8000人(2014年度で10年前から3割増えた。市内の全0～2歳児の2割が利用していることとなる。

保育ニーズに対応するため、市は4月に始めた国の子ども子育て支援制度に合わせ、定員が6～19人の「小規模保育」や「事業所内保育」の事業を行っている。

学校法人帯広葵学園が運営する「012 青い鳥保育園(西20条)」は小規模保育の認可を受けた。もともと幼稚園の預かり保育に使われていた施設で、ホールを仕切って教室にし、新たに調理室を設けた。定員19人の19人が通園している。

(平成27年9月20日 十勝毎日新聞)

帯広市内で小規模保育を行っている「012 青い鳥保育園」。定員19人の19人が通園している

保育士配置、手厚く

定員が少ないために病気の流行などで幼児が減ると運営面でも苦労することはあるが、活動内容に合わせて保育士が柔軟に対応できるのは小規模ならではの。

久保下直子園長は「子供の状況に合わせて丁寧に見ることを心掛けています」と話す。事業所内保育では医療法人社団刀ま会が「ひなたぼ(保育園)西15北」を運営している。

章町では、昨年まで認可外保育所だった「家庭保育園ひだまり(天野西通19)」と「りくるち(みず草更)(天野大通西15)」が、小規模保育事業所に移行した。保育内容に変更はないものの、小規模保育の場合は認可保育施設なので保育士の配置が手厚いのが特徴になっている。現在は定員19人に対して15、16人の利用がある。

ただ、3歳になると改めて認可保育所などに申し込む必要がある。優先的な入所措置や、同じ目標で一緒に保育を行うなどする「連携園」の体制は整っていないのが現状。町子育て支援係は「連携園の整備については5年間の猶予があるので、その間に整備したい。」としている。

(安田義教、佐藤いづみ)



学校法人 **帯広葵学園**

〒080-0022
帯広市西12条南17丁目3 難波ビル2F
TEL 0155-23-7604 / FAX 0155-67-5778
URL <http://www.obihiraaoi.ed.jp>

